

## 【 シニア 】・・・鈴木

4月になりました。春らしく穏やかな気候に心む季節となりましたが、今年桜の開花が例年より早い(桜満開日は4/2と発表、例年より4日早い)ので桜の見頃がそろそろ終わりそうですね(6日現在)。

4月28日は「シ4ニ2ア8」の語呂合わせからシニアの日だそうです。シニアの意味や由来、そして元気に健康に、アクティブにシニアなど、呼び名からイメージされる年齢ってどう思われますか…。

世間で呼ばれている年配者を指す言葉として「シニア」「シルバー」「高齢者」「老人」の4つがありますが、呼び名からイメージする年齢を調査した結果、年齢が若い方から「シニア」「シルバー」「高齢者」「老人」となるのだそうです。一番若いイメージのシニア(senior)のそもそもの意味は「年長者、高齢者、上級者、上級生」とのことで、シニア年齢についてもハッキリとした定義があるわけではないのです。

昨年12月に全国の20～79歳の男女約1万人を対象に行ったある調査で、「シニア・お年寄り」の呼称に対するイメージ年齢を聞いたところ、「お年寄り」は⇒平均73.1歳、「おじいさん・おばあさん」は⇒平均69歳、「シニア」は⇒平均61.6歳と、最大11.5歳の差があることがわかりました。シニアはお年寄りよりずっと若いイメージということになりますね。

年をとるという意味の「よる年波」エピソードをシニアデビューなどと言っていますが、シニアデビューの体験談で多いのは、「老眼になった」「優先席を譲られた」「アイドルの顔がみんな同じに見える」「朝早く目が覚める」などといったことです。言葉自体はだいぶ浸透しているイメージですが、いざ自分がシニアに当てはまるかと考えた時、自分はシニアだと認めたくない方(私もそうですが)が多いのではないかと思います。

JRでは女性60歳、男性65歳以上になると旅客料金が2～3割引になります。他にも60歳になるといろんな割引があります。一部の航空会社では、航空運賃が、〇〇薬局、〇〇ドラックなどでも、5%や還元ポイントが3倍にもなります。携帯電話の料金も、映画館でもシニア料金で観られます。電子マネーのナナコカードでも、5%引になったりします。調べてみると、多種多様な場面で得をすることになります。60歳になると、悲しくもあり、嬉しくもあり…です。

シニアとはただ単に年齢を区別する言葉ではなく、「元気で活動的な、余裕のある大人」、そして、中身の充実した大人に割引をさせてくれることなんだと、実感しました。6月に60歳になる私もこれから、いろんなシニア割引を活用していこうと思います。



## 【 花(春のうららの墨田川) 】・・・手塚

車を走らせ川堤に通るかかると桜の花が満開を迎えていました。中学生の時に音楽の授業で歌った。春のうららの隅田川と言う歌詞が記憶の中によぎりました。

「春のうららの隅田川」が歌いだしの「花」は、作詞武島羽衣 作曲滝 廉太郎の歌で1900年ごろに作られたようです。作曲家滝 廉太郎代表作の一つです。

春のうららの 隅田川

のぼりくだりの 船人が

權(かい)のしづくも 花と散る

ながめを何に たとふべき

見ずやあけぼの 露(つゆ)浴びて

われにも言ふ 桜木(さくらぎ)を

見ずや夕ぐれ 手をのべて

われさしまねく 青柳(あおやぎ)を

錦おりなす 長堤(ちょうてい)に

くればのぼる おぼろ月

げに一刻も 千金の

ながめを何に たとふべき

中学生の時は音楽の授業でただ歌っていて、昔は隅田川も綺麗だったのだろうなとくらいにしか思っていませんでした。今、改めて歌詞の意味を理解しようとしたところ心に響くものがありました。

一番の歌詞の意味

「うらら」とは、空が晴れて、日が柔らかなのどかに照っているさま。うららか(麗らか)。

「權(かい)」は、船を漕ぐ道具。オール。

「花と散る」は、花びらのように散る。ここでは「花」は桜か。

「何にたとふべき」は、何にたとえたらいいだろうか、といった意味。

二番の歌詞の意味

「見ずや」は、「(こんな素晴らしい眺めを)見ないでいられようか」といった反語。結果として、「見よ、ご覧なさい」といった意味で使われる。

「あけぼの」は夜明け、明け方。清少納言『枕草子(まくらのそうし)』冒頭「春はあけぼの」が有名。「露(つゆ)」は朝露(あさつゆ)。

「われにも言ふ」は、私に語り掛けるような。

「夕ぐれ」は、清少納言『枕草子』における「秋は夕暮れ」を意識したものが。もちろんここでは春の夕暮れ。



三番の歌詞の意味

「錦おりなす長堤」は、美しく織られた錦のように花に彩られた川の長い堤防・土手。

「おぼろ月」とは、もやで霞んだ春頃の月。参考:『朧月夜(おぼろづきよ)』

「げに」は、本当に、いかにも、まちががなく。

「一刻も千金の」とは、ほんの少しの時間でも千金に値する、価値の高い様子。漢詩『春夜』の一節に由来している。

歌詞の意味を改めて理解すると更に花のすばらしさを感じながら春を満喫したいと思います。

## 【 春とspring(バネ) 】・・・小倉

4月に入っても暖かかったり、寒かったりの日々ですが、桜の花も今を盛りとばかりに咲き誇ってきました。この「綺麗」という感覚を忘れてはいないし、気づいたら葉桜だったなんてことにはなりたくないですが、桜を見ても何も思わなくなったら心配です。

スプリング、春とバネが何故同じ言葉かと思っていましたが、バネの方のスプリングはもともと「急に動く・飛び出る、(水が)湧き出る」という意味のsprigonが語源で、「泉の湧き出るところ=源泉」と意味が変化して、かつて新年は4月から始まりであったために、春は新年の始まりと考えられました。

「源泉」は「物事の始まり」と連想されて源泉=物事の始まり=1年の初め=春というように意味が発展しspringが春の意味になったとも言われているそうです。

それを考えますと、今まさにこの時期に考えるべきかもしれません。

少なくとも数年前出来たことは維持し、年齢とともに自分の周囲により考えさせられることは様々ありますが、まずは自分自身がしっかりしないといけないと思います。人に迷惑のかかるような生き方はしたくないですし、小さなことから心がけていきたいです。

前月にも述べました「人の振り見て我が振り直せ」はいくつになっても必要に思いますし、心と言葉は、裏表なく接して欲しいものですし、自分も出来ないものは無理なくその場しのぎにならないよう心がけていきたいと強く思いました。

今年はお出遅れてしまいましたが、また味噌づくりに励む予定です。

